

第一回 卒業式 式辞

昨年4月、開校記念植樹のしだれ桜、八重桜、そして、卒業記念植樹の陽光桜、校木である桜の芽も膨らむ弥生、三月。三寒四温の言葉通り「希望あふれる夢を抱いて輝く（校歌か

ら）」光に満ちた春がやってきました。特に、この会場には、一足早く桜の花が飾られています。改めて在校生、保護者の皆様、職員、会場の皆さんの卒業を祝う温かい気持ちが一層強く感じられます。

本日は、大崎市副市長 ◎◎ ◎◎様、市議会議員 ◎◎

◎◎様をはじめ地域の皆様に来賓としてご臨席賜りました。また、市教育委員会 教育長 ◎◎ ◎◎様にお出でいただき、「第一回 卒業式」を開催できましたことに心より感謝申し上げます。

さらに、今年度は四月の開校式、十二月の開校記念集会等におきまして皆様にお力添えをいただきました。また、総合的な学習の時間では 寒梅酒造 ◎◎ ◎◎様には特段のご尽力を賜りました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

■五、六年生、吹奏楽部の皆さんの演奏で入場した卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

みなさんは、困難な社会状況、制約のある学校生活にも関わらず、周りの意見に耳を傾けながら、「凡事徹底」を合い言葉にして心身を成長させ、自分の良さを伸ばしてきました。しかし、ここにたどり着くまでには、立ち止まったり、戻ったり、ゆっくり歩いたり、決して平坦な道ではなかったことでしょう。しかし、君たちは様々なことに「チャレンジ」し、周りの方々と力を合わせて、困難を乗り越え、着実に自分の人生の一ページを刻み続け、今、ここにいます。特にこの二年は、古川西中学校四十八年の歴史を閉じる年、大崎市初の義務教育学校・古川西小中学校開校という歴史の瞬間に立ち会いました。

ABCDの法則

昨年度の A 温かな仲間とあったか言葉を意識して

B 勉強を頑張り C 地域貢献し信頼される D 大事な友達と一緒に E いい思い出をつくろう

そして、今年度の A 新しい学校でも、B 凡事徹底を合い言葉に C チャンス・チャレンジ・チェンジを忘れずに

○ 団結して ▯ 笑顔で ▯ フォローし合える9年生・学校を創る を合い言葉に最上級生として後輩に範を示した皆さんを誇りに思っています。

卒業に当たり、餞（はなむけ）として話します。

◆ 「**自分を大切にすること。**」 ことについて。

自然界は適者生存の法則で成り立っています。優れたものは生き残り、劣った物は減んでいく厳しい法則です。それなのにごうして色とりどりの花があるのでしょうか。

もし、赤い色の花が優れているとすれば、世界中の花は全て赤い色に進化するはずです。しかし、紫や黄色、白い花も咲いています。自然界には、様々な環境があり、場所や季節が変われば正解が変わります。

自然界に正解はありません。自然界にある花はどれもが正しくて、どれもが優れているのです。全ての花には、それにふさわしい場所があり、それぞれがふさわしい場所で美しく咲いています。こうして、自然界は様々な花が存在します。皆さんも一人自分を大切に、自分だけの花を咲かせてください。

◆ 「**夢・志を持ち続け、人生の主演を演じきる**」 こと。

昔話「うさぎとかめ」では、ウサギとカメが山の上を目指して競走します。ウサギは途中で昼寝をしまい、わずかの差

でカメに負けてしまいました。この話からは「油断大敵」「あきらめない心」「何事もやってみなければわからない」等の教訓が得られます。また、このレースを人生にたとえてみます。このレースの間、ウサギとカメはそれぞれ何を見続けていたのでしょうか。ウサギは、後ろにいるカメを見ていました。足の遅いカメにさえ勝てれば、レース内容は関係なし。自分と他を比べて、自分が優れていると決めつけ満足していました。物事を考え、判断する基準は、自分ではなく他人です。

一方、足の遅いカメは、スタート直後は、ウサギの背中を見て走りましたが、視線の先には、常に山の上のゴールがありました。ゴールと自分自身の位置を確かめながら走りました。

そうは言っても、「まだ半分にも満たない」「もう、のどがからからだ。このままでは、暗くなってしまう。」と遠いゴールを見ては、何度も心が折れそうになったはずです。そのときに聞こえてきたのが森の熊や小鳥やリスたちの声です。「がんばれー」「もう少しだー」「あきらめるなー」等の周りの声援を受け、カメはまた、心にエネルギーが満ち、ゴールにたどり着きます。都合の良すぎる展開とも思えますが、最初はだめでも努力し、周りの励ましに助けられて最後はうまくいきました。

皆さんも「夢・志を持ち続け、人生の主役を演じてください。」

ある先人は、「幸せは山のようなもの。遠くから眺めているだけでは決して近づくことはできない。しかし、こちらから登っていけば、やがて頂上にたどり着く山のようなもの。待っているだけで手にできる幸せはない。自分の人生は自分の力で切り開いていく。自分の力で幸せに導くことができる。自分で成し遂げたことは、その後の支えとなる。」と説いています。

また、「人生で成功するということは（人を）負かすことではない。倒れるたびに起き上がるということだ。」という言葉も紹介しておきます。

凡事徹底の四つ目「失われたものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」の言葉も大切にしてほしいと思います。

◆保護者の皆様、一年前の立志式、三年前、九年前の入学の日。そして、十五年前の誕生の時を思い浮かべますと、心身ともに、たくましく成長した我が子の姿に喜びも一入かひとしげと存じます。お子様の成長にあわせて、まさに、一喜一憂した十五年間だったのではないでしょうか。

社会的な不安に翻弄された数年間でしたが、今、確かなことは、お子様は、無限の可能性を秘めた自分の未来に向かって、自分の

足で歩き出していることです。これからもお子様を励まし、支え続けていただきますようお願いいたします。

■在校生の皆さん。卒業生の後ろ姿を目に焼き付け、「歴史受け継ぎ未来を創る（校歌から）」ことをお願いいたします。

■結びに、卒業生は多くの大変を経験しました。「大変」とは「大きく変わる」と書きます。この3年間、世界各地、国内、大人も皆さんも社会も大きく変わりました。学校も古川西小中学校として産声を上げ、独り立ちしようとしています。このような大きな環境の変化の中でも、皆さん一人一人が「学び尽くせぬ 広き世界へ羽ばたく（校歌から）」ことを期待して式辞とします。

令和六年三月九日

宮城県大崎市立古川西小中学校 校長 笹川 清治